



小野小だより

「強く 正しく 美しく」

令和3年2月

保護者の皆様

学校長 檜本由広

学校の教育目標を「夢や志を持ち、たくましく学び続ける児童の育成」と掲げて取り組んできた本校の1年を、児童及び保護者アンケートの結果をもとに評価しました。その観点には、**1**学校満足度、**2**学習習慣、**3**基本的な生活習慣とコミュニケーション、**4**教師と児童との信頼関係、**5**学校生活、**6**小中一貫教育、**7**家庭・地域との連携の7点です。

また、評価については、「そう思う(%)」「ややそう思う(%)」を合計して肯定的評価（表の網掛け欄）とし、肯定的評価が90%を超えている項目は大変良好と、80%を超えている項目は良好と評価をしています。

保護者の皆様には「学校評価アンケート」へのご協力ありがとうございました。以下のとおり、取りまとめましたので、報告させていただきます。

1 学校満足度について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	楽しく学校に来ている。	92	8
	保	子どもは楽しく学校に登校している。	97	3
【項目2】	児	友だちと仲良くしている。	96	4
	保	子どもは友達と仲良く過ごしている。	96	4
【項目3】	児	こまっている人を見たとき、助けようと思う。	95	5
	保	子どもの思いやりの心は育っている。	96	4
【項目4】	児	まじめに学習に取り組んでいる。	93	7
	保	子どもは学習に対し、まじめに取り組んでいる。	91	9
【項目5】	児	学習内容はわかる。	93	7
	保	子どもは学習内容を理解している。	92	8
【項目6】	児	夢や目標(めあて)を持っている。	87	13
	保	子どもは夢や目標(めあて)を持っている。	79	21
【項目7】	児	自分にはよいところがある。	83	17

学校に対する満足度に関わる評価項目は、「学校が楽しい」「友だちと仲良く」「困っている人を助ける」「まじめに学習」「学習内容が分かる」「夢がある」「自分にはよいところがある」の7項目から評価しました。7項目の内5項目で、児童・保護者ともに90%を超えており、学校満足度については大変良好な結果となっています。

項目6の「夢がある」、項目7「自分にはよいところがある」が、前年比で児童の評価が3ポイント下がっていました。

学校は、子どもたちが、安心して自己表現し、仲間と協働して学べる場でありたいと願っています。本校の子どもたちは、仲間と集い、正しく学ぶ学校の良さの中で、自己表現し、他者を思いやるやさしさを共有していると評価できます。

それだけに、「夢」という子どもたちが将来への展望を持つこと、「自分のよさ」という今の自分を支えるもの

を、学校・家庭と、ともに育てるという視点を改めて確認したいと考えています。

「強く願えば行動が変わり、願いは必ず叶う。」、そして、「あなたたちはすばらしい。」と折に触れて伝え続けてきましたが、この1年間は、子どもたちが生活の目標を確認しづらい1年間だったのかもしれませんが。運動会、音楽会など、子ども自身の成長を保護者の皆様とともに実感できる、目標を設定できるそんな機会を減少させてしまったことが影響し、とりわけ、「学校が楽しい」と肯定できなかった子どもたちへの影響があったのかもしれませんが。

また、小中一貫教育がめざす児童の自立ですが、「自立」に欠かすことができないことの中でも「自分のよさを知る=児童が自己理解を深め、自己を肯定的に受けとめる」ことは大変重要です。そのことが基盤にあつてこそ、将来やそして周囲に目を向け、子どもたちの活動がたくましくなる(主体的で、粘り強く、自ら調整できる)と考えるからです。

改めて、本校の教育目標に掲げた「夢や志を持ち、たくましく学び続ける児童の育成」に取り組み、目標・課題に向けてたくましく心が動き続ける子どもたちの姿を願って、保護者の皆様と取り組んでまいりたい。

学校評議員の皆様から、「『夢や目標』が他の項目に比べて課題となっています。生活の場面や学校行事において、多様な役割やチャンスの場を設けて、『こんなことができる』『できるようになった』という自分の可能性を自覚させたい。感染症の影響で、学校全体、保護者も参加するという大きな集団での活動が難しい中で、学級や学年などの小さな集団において、生活の「節目」が実感できるような機会の設定だけでなく、懸命に取り組んでいる子どもたちの姿を評価していく大人の関わり方を考えていきたい。そのことが、否定的な評価となった子どもたちを応援することにもつながります。」と助言していただきました。

2 学習習慣について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	家庭で毎日勉強している。	94	6
	保	子どもは家庭で毎日勉強している。	91	9
【項目2】	児	自主学習(マイスタノート)を意欲的に取り組んでいる。	86	14
	保	子どもは自主学習(マイスタノート)を意欲的に取り組んでいる。	78	22
【項目3】	児	家庭で毎日読書をしている。	72	28

学習習慣については、「毎日勉強している」「自主学習に取り組んでいる」「家庭で毎日読書している」の3項目から評価しました。家庭での学習習慣は大変良好です。課題となっている「家庭での読書」は、4ポイントアップしていました。

家庭学習については、学校での学習内容を定着させることに大きな役割を果たしているだけでなく、1日24時間と限られている中で、時間を有効かつ計画的に活用するトレーニングとしても重要です。低学年の間は、自分で課題を見つけることが難しかった子どもたちが、徐々に自らの「学びに向かう力」の成長を確かめられる「マイスタ」です。6年間という長い時間の中で、子どもの成長を応援いただくようよろしくお願いいたします。

読書習慣の育成に向けては、感染症の影響から、図書室に人が押し寄せることを推奨できない中でしたが、「ブックファミリー(今年度から名称変更)」の皆様の手をお借りして、学校図書館の運営を活性化していただいています。ブックファミリーの皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

学校評議員の皆様から、「自主学習(マイスタノート)の取組は、子どもの自主自立を促す重要な取組です。『家庭学習の手引き』を参考にしたり、長期に取り組むことで解決する課題を設定したりするなど、子どもが『やってみよう。』『これがやりたい。』となるように応援していただきたい。さらに、家庭における読書を大切にするために、学校での朝の読書習慣を家庭でも膨らませることができるよう、小野市立図書館を大いに活用していただきたい。」と提案していただきました。

③ 基本的な生活習慣とコミュニケーションについて

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	早寝、早起き、朝ご飯に取り組んでいる。	84	16
	保	子どもは早寝、早起き、朝ごはんに取り組んでいる。	82	18
	保	家庭ではバランスのよい食事に心がけている。	93	7
【項目2】	児	あいさつはよくできている。	89	11
	保	子どもはよくあいさつをしている。	86	14
【項目3】	児	学校のように家が人が聞いてくれる。	86	14
	児	こまったことなどを、お家の人に話している。	85	15
	保	家庭では子どもの話や相談を聞いている。	97	3
【項目4】	児	ゲーム・スマホをするときは、1時間以内を守っている。	69	31
	保	子どもはゲーム・スマホをするとき、1時間以内である。	51	49

基本的な生活習慣とコミュニケーションについては、「早寝、早起き、朝ご飯」「あいさつ」「家庭での会話」の3項目から評価しました。どの項目も良好な状況ですが、「ゲーム・スマホは1時間以内」は大きな課題です。

「早寝、早起き、朝ご飯」が「大変良好」とならない背景に、「ゲーム・スマホ」の存在があるのかもしれませんが。子どもたちが健康で安全に学校生活を送ることを最優先に、懸命に考え続けた一年であったからこそ、子どもの健康、身体や脳の健全な発育について考えたいと思います。

「ゲーム・スマホとのつきあい方」について、「ゲーム・スマホは1時間以内なんて無理」と捉えてしまっているようなところがあるのではないのでしょうか。児童7ポイント、保護者8ポイントのダウンでした。改めて、今の課題として、克服すべき課題として、子どもたちの見守りをよろしく願いいたします。

その一方で、学校でも「一人に1台の端末」となり、4月からはタブレットパソコンを手に、学習する機会が増えています。ネット環境での「生き方」も学ぶ機会となります。その点につきましても、保護者の皆様と取り組んでいく必要がさらに高まると考えています。

学校評議員の皆様から、「『家庭でのコミュニケーション』も、ゲーム・スマホ等の影響があるのでしょうか。ゲーム・スマホが生活のリズムまで崩していることが心配です。また、『ゲーム・スマホ』等、近くの物ばかり見ていることが、目の健康によくないそうです。『外で遊んだり、遠くを見たり』と目の健康についても十分な配慮が必要です。」と指摘していただきました。

④ 教師と児童との信頼関係について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	先生は、わたしのよいところを認め、ほめたり、励ましたりしてくれる。	90	10
	保	学校は子どものよさを認め励まそうとしている。	98	2
【項目2】	児	先生は、わたしが間違っことをしたとき、きちんと注意をしてくれる。	97	3
	保	学校は子どもの間違っ行動に対して保護者ととも解決しようとしている。	96	4
【項目3】	児	こまったり、なやんだりしたときは、先生に相談している。	80	20
	保	学校は子どもの話をよく聞こうとしている。	96	4
【項目4】	児	授業は、工夫されていてわかりやすい。	93	7
	保	学校は興味・関心を持たせるような授業の工夫をしている。	98	2
【項目5】	児	地域の人やゲストティーチャーの方と学習してよかった。	-	-
	保	学校が地域の方やゲストティーチャー(外部講師)の協力を得た教育活動を行っていることはよい。	-	-

教師と児童との信頼関係については、「児童のよさを認め褒めること」「児童の間違った行動への指導」「困ったときの児童から教師への相談」「授業の工夫」の4項目で評価しました。

「教師と児童との信頼関係」については極めて良好です。学校長として、肯定的に認め、応援していただいている保護者の皆様に厚く感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

項目3の「困ったときの児童から教師への相談」については、学年が上がるにつれて下がっている傾向が続いています。自立の兆候と捉えるとともに、子どもたちの「心の変化」をどう受け止め、どう対応していくかという教師の観察力が問われるところでもあると考えています。そのことを踏まえ、毎月の「いじめ等防止対策委員会」や「生活アンケート」を活用し、「いじめ」については、学校として絶対に許すことができないこととして、学校全体で、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めています。今年度は、7件(2月8日現在)を「いじめ」と判断し、被害者を徹底して守る姿勢で、加害側の保護者にも連絡しその解消に努めました。子どもからの訴えを受け保護者からの連絡によるものもあります。子どもたちの困り感については、即座に学校への連絡をお願いいたします。

加えて、教職員の対応に対して、気になる点をご指摘いただいたご意見もありました。そのような時にも、直ちに対応することを心掛けています。ご連絡をよろしく願いいたします。

項目4の「授業の工夫」については、感染症予防の観点から、黒板に正対した机の配置、隣と1m以上離れる、対面するグループでの活動を控えるなど、多くの制約を受けながら授業を実施してきました。休校期間中の授業時数を確保するため夏休みを返上しながらも、子どもたちと向き合う時間を確保し、通常の教育活動を実施することを最優先に取り組むことができましたことは、保護者の皆様のご理解とご協力の賜であると感謝をしています。

この1年は、ゲストティーチャーを招いての教育活動、子どもたちが地域に出かけていく活動も制限せざるを得ませんでした。そんな中で、3年目を迎えた明石工業高等専門学校と連携して実施している「プログラミング」体験は、5・6年生に実施することができ、その一端は、広報「おの」2月号にも紹介されたところです。4年生には、「身のまわりにあるプログラム」について、リモートで他校の児童と同時に学習することも試みており、4月から「一人に1台の端末」のもとでの新展開に期待しているところです。

学校評議員の皆様から、「『児童から教師への相談』80%、『児童から家の人への相談(3の項目3)』85%であり、誰にも話せていない子どもがいるのではないかと心配になります。誰にも言えずに抱え込んでいる悩みがあるかもしれないという認識で、ちょっとした仕草・会話の中に見られるサインを見逃さないように。」と指摘していただきました。

5 児童の学校生活について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	学校のきまりや交通ルールを守っている。	97	3
	保	家庭ではきまりや交通ルールなどを守るように話している。	98	2
【項目2】 (再掲)	児	あいさつはよくできている。	89	11
	保	子どもはよくあいさつをしている。	86	14
【項目3】	児	正しい言葉づかいをしようと心がけている。	91	9
	保	家庭では正しい言葉遣いができるように話している。	87	13
【項目4】	児	そうじを、一生懸命している。	96	4
【項目5】	児	児童会活動や委員会活動、学級の仕事を一生懸命している。	96	4
【項目6】	児	給食は、好ききらいなく食べている。	82	18

児童の学校生活については、「学校のきまりや交通ルールを守る」「あいさつ」「言葉づかい」「そうじ」「委員会や学級等の仕事」と「給食」の6つの項目で評価しました。「給食は好き嫌いなく食べている」は児童82%で良好で、他の項目はどれも90%（再掲項目のあいさつ89%）を超えており、大変良好です。

学校は人が集うところであり、その社会では、誰もが安心して、より良く生活できるよう、当たり前のように、ごく普通に大切にすべきルールやきまりといった規範があり、それを尊重しようとする規範意識は、社会人になったときに大きな力となります。

とはいえ、分かってはいるけど、できないときがあったり、心掛けてはいるけれど、間違ってしまったたりするのも人間ですので、行動面だけで判断することなく、1度の過ちだけで判断することなく、「繰り返し、繰り返しの関わりの中で、子どもの心は変化し、成長する」ことを信じて見守り続けたいと考えています。

子どもたちの道徳性は、道徳の時間だけでなく、成功し褒められること、失敗し叱られることも含めて、子どもの心がより「強く 正しく 美しく」育つことを願って、すべての機会をとらえて育ててまいります。

学校評議員の皆様から、「高評価であることで安心できます。規範に関わる項目は、人が生活していく上で重要なことであり、継続した指導をお願いします。」と、期待を寄せていただきました。

6 小中一貫教育について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	児	(5・6年)教科ごとに先生がかわるのは、わかりやすい。	93	7
	保	第5・6学年で、教科によって先生が入れ替わるのはよい。	98	2
【項目2】	児	(5・6年)定期テストなど、計画的に家庭での学習に取り組んでいる。	89	11
	保	小中一貫教育は、学力向上に効果がある。	78	22
【項目3】	児	(5・6年)自立に向けて、自分で考え、判断し、行動している。	88	12
	保	小中一貫教育は、子どもの自立に効果がある。	77	23

小中一貫教育については、5・6年生で実施している「教科担任制」「計画的な学習」「自分で考え判断し行動」の3項目で評価しました。児童は約90%で大変良好な結果となりました。

保護者は、目に見える「教科担任制」への高評価に対して、「学力向上」「子どもの自立」について評価しづらかったことがうかがえます。

小野市の小中一貫教育は、小学校と中学校の教職員が、9年間の教育を見据えて、ともに児童生徒の教育に関わろうとするものです。小野中学校区小中一貫教育を卒業する15歳の姿に責任をもとと、とりわけ、小中一貫教育の第2期(5・6・7年生)には、児童の自立を見据えて、小中学校の教職員が取組を進めています。

項目1の「5・6年生の教科担任制」は、3人の学級担任に加えて、「英語」「音楽」「家庭」「理科」の専科教員、計7人が子どもたちを見守り、さらに、「算数」は複数指導で実施という体制で、もちろん、英語にはALTも加わり、高学年にもなれば、ほぼ英語だけで授業が進んでいる状況もあり、多くの教職員の目で見守り、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。

項目2の「計画的な学習」は、全校生で取り組んでいる自主学習(マイスタノート)の発展として、5・6年生は学期ごとの定期テストを実施しています。国・算・社・理のまとめのテストを実施する日を予告し、各教科の出題範囲表をもとに、児童がスケジュール表を作成し、その計画にそって学習を積み上げていくという計画的な学習習慣づくりを目指しています。

項目3の「自立」については、児童が「自分で考え、判断し、行動する」ようになることが肝要であり、5・6年生に意識をさせたい心構えです。「自分で考え、・・・」については、脳科学で言われる脳の成長「10歳の飛躍」を機に、大人を意識した思考への働きかけだと捉えています。親や教師がルールを敷いて、その上を走るところから、できることから「自分で考え、判断し、行動していく」ことが膨らみ広がっていく小中一貫教育の第2期(5・

6・7年生)でありたいと願っています。

それらの取組については、「小中一貫教育5年間の取組」として広報チラシをお配りすることとしています。

今年度は、感染症の影響があった1年間でしたが、そんな中でも小中一貫教育の効果を実感できることがいくつかありました。

例えば、6年生の中学校での「1日生活体験」が中止になってしまいましたが、代わって、6年生たちにメッセージビデオが届きました。送り主は中学校の英語の先生と生徒たち、内容は中学校の部活動を紹介する英語スピーチです。英語学習に生かせるように工夫されています。また、小野東小学校の教員とは、教育活動をどう展開するか情報交換をしながら進めてきました。これらは、小中一貫教育の大きな成果と捉えています。

学校評議員の皆様から、「小中一貫教育による『学力向上』『自立』については、比較対象もなく評価しづらかったと思います。その中で、5・6年生の教科担任制など、小中一貫教育以前の課題が解消したり、小野中学校区として各校が協働して取組んだりしていることは大きな成果である。」と評価していただきました。

7 家庭・地域との連携について

◆ 評価項目とその評価

(%)

【項目1】	保	学校は学校・学年だより・ホームページなどを通して、家庭への連絡や情報の提供を行っている。	98	2
【項目2】	保	学校は登下校の安全に対し、PTA・地域と協力して取り組んでいる。	96	4
【項目3】	保	学校は校内の環境整備や美化に取り組んでいる。	95	5

家庭・地域との連携については、「学校からの情報提供」「登下校の安全確保」「校内の環境整備や美化」の3項目で評価しました。3項目とも大変良好な結果となっています。

保護者のご意見の中で、「学校だよりは積極的にされていていいと思うが、ホームページはあまり参考にならない。一斉メールは助かっています。」と、少々厳しい意見がありました。学校からの情報提供は積極的であるべきと考えています。今年のようなコロナ禍の中で、いくつもの不安を解消するためにも、それは欠かすことはできません。毎月の学校だよりに加えて、ホームページの運営に工夫を凝らしながら、緊急連絡の「小野小一斉メール」とともに、積極的かつ有意義な情報提供に努めてまいります。

登下校の安全確保に向けて、保護者の皆様だけでなく、地域の皆様にもご協力いただき、危険個所での毎朝の見守り、声掛けに取り組んでいただいています。本当にありがとうございます。その一方で、学校は下校時の引率・安全指導を、機会をとらえて重点的に実施させていただきました。登下校中の事故がなく過ごせたことをうれしく思います。加えて、下校後の公園等での遊び方、自転車の乗り方など、地域における子どもの生活につきましても、互いに見守り、気になることは学校にお知らせください。

感染症の影響で、学校の教育活動とともにPTA活動にも大きな制約がかかりました。PTA理事、評議員の皆様にもご迷惑をおかけいたしました。各種の事業が、協議し、準備するけど結果的に中止といったことも多くありました。そんな繰り返しでしたが、いつも子どもと学校のことを最優先にお考えいただいたと感謝を申し上げたいと思います。

「ふるさと小野」の教育は、PTAをはじめ、地域をあげてのご支援とご協力によって、充実し発展すると考えています。そんな皆様の姿に、子どもたちは、小野小学校に対する愛着を覚え、小野小学校に「ふるさと」を感じるのだと思います。今後とも、「ふるさと小野小学校の教育」にご理解とご協力をよろしく願います。

学校評議員の皆様から、「子どもたちの事故を考えたとき、学校から帰ってからの自宅周辺の事故が多く報告されているようです。子どもたちの安全確保に向けては、地域の方と連携し、見守り・声かけの習慣づくりがもっと大切になっている。」と助言していただきました。

※ 学校ホームページには、保護者の皆様からいただいたご意見「自分のお子さんの成長を願って、ご家庭で取り組んでいращやること」を掲載しています。